

Form 5

平成 21 年 5 月 26 日

サイエンス・ダイアログ事業 実施報告書

1. 参加機関(学校名)・担当者: 岐阜県立岐山高等学校 郡美穂

2. 参加研究者: Dr.Ammer A.BOUDAKA 三原 弘

3. 実施日時: 平成21年 5月 25日 (月) 10:50 ~ 12:30

4. 参加生徒: 2年生 43人、 1年生 1人、 3年生 1人 (合計 45人)
備考: 理数科の生徒

5. 講演題目: (英文)

(和文) 私たちは痛み、機械刺激、味や温度をどうやって感じ取るのだろうか

6. 講演概要:

- ・リビアの位置、人口、代表的な町、食べ物、動物について
- ・人間の五感について

人間の体には様々な刺激に対する受容体が存在している。受容体がないマウスなどは刺激を与えても反応しない。辛さや甘さを感じる受容体は温度の受容体を活性化させるものがある。そのため、辛さや甘さは温度が高い場合より強い刺激として感じる。

7. 使用言語: 英語

8. 講演形式:

(1) 講演時間・質疑応答時間 90 分

(2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、プレ実験など)

プロジェクター使用による講演、体験実習

(3) 通訳 (例: 受入研究者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)

受け入れ研究者によるサポート

協力者 職・氏名

岡崎統合バイオサイエンスセンター 三原弘

(4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)

講演者作成資料を使った予習プリント

9. 支給経費: 交通費 宿泊費 謝金

10. その他特筆すべき事項: